

かくはいへる也、かゝるも猶神代のなごりぞかし。

〔鹿之卷筆〕正月は物いまひ 田所町にかふしう屋の甚右衛門とて、代々法花宗にて、ものいまひをせらるゝ、きうとう廿八日まで玄やうばいいそがはしさ、かざりのどうぐもこしらへざるゆゑ、作介をよびて、かざりなはをなへといふに、作助手をついて、おてうほうなるわたくし、かざりをいたさば、ろくではござるまいといふ、ていしゆ氣にかけて、ばかめがといふて、そばなるまきをなげつける、作介、これだんな、またなげきをなさると云、甚右さてく、せひもなきたわけじや、さやうの事はぬかさぬものぢや、あすは大つごもりぢや、かならずそそをいふな、ことに元旦には諸事とりおとし、物をうちわりなどしても、めで度なつたとばかりいへといひつけけるに、たなよりもの、おちか、りければ作介ちうにてとり、わがあらんかざりは、めつたにめでたくはせまいといふた。

〔根無草後編一〕されども人情の淺はかなる、門松は冥途の旅の一里塚とも氣はつかで、無上に新春の御慶と壽き、懸棘鬘魚も魚の武骸と悟らねば、めつたに目出度ものとのみ覺え、熨斗鮑を顛倒せば、しのと讀まれ、四の字をさらへば、五の字にもごねるといへば、油斷ならず、

〔日次紀事正一月〕

元日

掩門戶

京俗自元日至三日、民間掩門戶、言不令福神出外也。

〔秋苑日涉六〕民間歲節上 元日市民皆不開正戶、世傳在昔僧狂雲元旦掛觸體於杖頭、行示市人曰、警悟警悟、市人皆閉戶回避、三朝不開正戶、蓋自是始。

〔日次紀事正一月〕

凡毎年得方之家、大開鋪賣大小之簿冊、是稱帖屋、裝潢上大書大福帖字、左右記年月

且其市鄙人從其所好而記之、賣其人、求之人於得方家買帖、則其年必得利云、略中凡其歲吉兆之方、必在幾農惠加農惠等之惠方、向斯方而爲事、則必吉、俗以惠爲得字、每事欲得之也。

〔鹽尻七〕歲德ノ方ヲ惠方ト云 歲德の方を俗に惠方と云、吉方とかくなり、伊勢守記に、寛正六